

令和2年度授業改善推進プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(社会) 教科担任名 福田 渉

★教科・観点について

期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
社会的事象への 関心・意欲・態度	1年	○グループワークに前向きに取り組む。 ▲発言が一部の生徒に偏ってしまうことが多い。	・机間指導の際に生徒の取り組みに応じて声かけなどの支援を行う。 ・生徒が関心を高めるような導入時の教材提示を工夫する。 ・ICT機器(PCと大型テレビ)を使った資料の提示など、生徒の興味や関心を高める工夫を継続していく。	1年	○発言や反応が良くなってきた。 ▲グループでの話し合いが一部リーダー任せになってしまう。	・ペアワークでの意見交換を取り入れると、対話をしながら積極的に取り組む生徒が増えた。 ・ICTによる資料などの提示も、生徒の思考の流れに沿うように工夫をした。	
	2年	○授業チャイム時には着席をし、準備ができている。 ○グループワークに意欲的に取り組む生徒が多い。 ▲発言が一部の生徒に偏ってしまうことが多い。		2年	○ペアでの意見交換や班学習で意欲的に取り組む。 ▲全体での発表や発言に消極的。		
	3年	○授業チャイム時には着席をし、準備ができている。 ○グループワークに前向きに取り組む。 ▲忘れ物が多い生徒、私語などで授業に集中できない生徒がいる。 ▲課題に積極的に取り組む生徒とそうでない生徒の差が大きい。		3年	○ペアでの意見交換を行い、自分の考えを伝えようとしている。 ▲全体での発表や発言に消極的。		
社会的な 思考・判断・表現	1年	○様々な資料に触れながら、社会的事象について考えることができた。 ▲資料から読み取ったことや自分の考えを文章化するのが苦手な生徒が多い。	・生徒に何を考えさせるのかを明確にした発問を工夫する。 ・ペア学習やグループ学習を設定し、グループで話し合って答えを導くなど、多面的・多角的に考えられるようにする。 ・個人で考えたことも発表などを通して全体で共有し、多面的・多角的に考えられるようにする。	1年	○自分の読み取ったことや考えを少しでも書ける生徒が増えてきた。 ▲事象間の因果関係を考えることが苦手な生徒が多い。	・ペアワークでの対話を通じて考えることができた。 ・班で資料を考察させる場面を設定した。その際は複数の資料・資料の考察が苦手な生徒への個別のフォロー(助言や補助資料の提示など)だけでなく、理解ができていない生徒には個別に発展的な問いを投げかけ、さらに深く考えられるようにした。	
	2年	○様々な資料に触れながら、社会的事象について考えることができた。 ○グループワークで様々な視点を共有しながら、社会的事象について考察することができた。 ▲資料から読み取ったことを、文章化するのが苦手な生徒が多い。		2年	○自分の読み取ったことをもとに他の人に説明することができる生徒が増えてきた。 ▲事象間の因果関係を考えることが苦手な生徒が多い。		
	3年	○資料の注目すべき点を適切に理解している生徒が増えた。 ○班での意見交換や話し合いを設定すると、理解が深まる。 ▲個人で考察する時に、自分の考えを自信をもって書くことができない。 ▲資料から読み取ったことを、具体的な文章で説明するのが苦手な生徒が多い。		3年	○自分の考えを書き力が少しずつ増えてきている。 ▲考えをまとめるのに時間がかかる。		
資料活用 の技能	1年	○授業の中で様々な資料に触れることができた。 ▲テストになると資料活用問題の正答率が低く、資料を活用して問題を解くことに慣れていない。	・資料のどの部分に注目したのかを明確にさせ、資料から適切に情報を読み取る視点を全体で共有する。 ・図、グラフ、地図、主題図、表などのさまざまな資料を授業の中で示し、それらを使って考えさせながら資料の活用慣れさせる。 ・複数の資料を比較したり関連付けたりして、考えさせる場面を設ける。	1年	○資料の考察やグループによる資料の考察などを通じて、授業の内容を理解することができた。 ▲既習事項や知識を生かして、自分の言葉で学習のまとめを書ける生徒とそうでない生徒の差が大きい。	・資料の注目すべきポイントがわからない生徒には、机間指導の際に個別に助言することを継続。 ・ペアでの意見交換などを通して、資料の注目すべきポイントに気付くことができるようになる。	
	2年	○提示された資料のどこに注目すべきなのかを、適切に理解している生徒が増えた。 ▲複数の資料を活用しながら、社会的事象について考えることは苦手である。		2年	○資料の考察が苦手な生徒も、個別に声をかけたりすることで理解がすすむ生徒が増えた。 ▲資料から読み取ったことを具体的な言葉で説明できる生徒とそうでない生徒の差が大きい。		
	3年	○授業の中で様々な資料に触れることができた。 ▲テストになると資料活用問題の正答率が低く、資料を活用して問題を解くことに慣れていない。		3年	○資料を提示したとき、注目すべきポイントを適切に理解している生徒が増えた。 ▲資料から読み取ったことを具体的な言葉で説明できる生徒とそうでない生徒の差が大きい。		
社会的事象について の知識・理解	1年	○小学校での学習内容をもとにさらに知識の積み重ねができた。 ▲テストになると知識・理解の問題の正答率が低い。用語の漢字が書けない生徒が多い。	・毎回の授業のはじめに、前時の内容の確認を行う。 ・本時のねらいを明確にし、授業を進めるようにする。 ・ワークの提出などを通して、分からないことも自分で調べる習慣を身に付けさせる。 ・単元毎にふりかえりの活動やまとめプリントに取り組むようにする。	1年	○前時の内容の振り返りが定着してきた。 ▲テストの問題では、適切に語句を書ける生徒と書けない生徒の差が大きい。	・口頭での説明だけでなく、写真や図などもパワーポイントで提示しながら、基本的な用語を視覚的支援も使いながら確認するようにし、知識の定着を図る。 ・ワークシートの作り方を工夫し、授業の流れやポイントがわかるようにする。 ・本時のねらいを明確にし、授業を進めるようにする。	
	2年	○グループワークなどを通じて、授業内容への理解を深めることができた。 ▲知識が定着している生徒と定着していない生徒の差が大きい。		2年	○前時の内容の振り返りが定着してきた。 ▲既習事項と関連付けて理解できる生徒とできていない生徒の差が大きい。		
	3年	○グループワークなどを通じて、授業内容への理解を深めることができた。 ▲テストになると知識・理解の問題の正答率が低い。用語の漢字が書けない生徒が多い。		3年	○1学期に比べ、テストの問題でも語句を記述できる生徒が増えた。 ▲歴史や地理などの既習事項と関連付けて理解できる生徒とできていない生徒の差が大きい。		
授業改善の 検証方法	定期テスト、ワーク、単元のまとめプリント、授業のワークシート、授業観察、授業評価アンケートなど			定期テスト、ワーク、単元のまとめプリント、授業のワークシート、授業観察、授業評価アンケートなど			
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題		